

市民俳歌柳壇

特選

胃カメラの蠢く気配養花天

上田町 村上 恒子

●特選の選評 健康診断で胃カメラを飲んだと言う。食道をすりと通り抜け胃に入ると、カメラは右に左に赤い肉の壁を映し回る。それを「蠢く気配」と詠み、あたかも生き物のように捉えた。下旬に「養花天(花曇)※」の「こと」と季語の据え方も見事である。
※ 桜の頃のどんよりとした暖かい曇り空。

俳句



加茂都紀女先生

入選

何事も気力一筋蛭汁

江曾島町 長谷川 昇

六年生に付くびかびかの新入生

西2丁目 佐藤 順子

花筏誰か乗せんと流れゆく

江曾島5丁目 柳 裕泰

陽も雨もうれしうなり早苗立つ

中岡本町 中沢 智子

特選

ほわあんと窓越しの桜ながめ居る
気配だけなる猫と並びて

清原台1丁目 三木 紋子

●特選の選評 「ほわあんと」の初句の響きが情景、ムード、ほの暖かさを醸し出す。窓を隔て「桜ながめ居る」作者の物思いを感ずる。「気配だけなる猫と並びて」そこには居ない、亡き猫か、隣に居るような感じを抱き、「猫と並びて」猫と同じ方向を見て居る、つまり桜を見ているのである。「ほわあんと」が作者を包み、短歌を包み、読者をも包み込む一首である。

短歌



安野登美子先生

入選

堰を越え雪解の水の音冴えて
春の兆しの明るさの満つ

下岡本町 高尾 伸尚

掘って来た筒ゆでる妻笑顔
ふるりの香り全身に浴び

下栗町 大塚 榮子

早春の風やはらぎて桜便り
うす紅に心はづみぬ

長岡町 赤羽 スミ

ぐんぐんぐん節次つぎと今年竹
鬼怒川浴びてひといる青田かな

幸町 渡邊 公之

特選

デジタル化ハチ公暇を持って余す

泉が丘1丁目 川里 宏

●特選の選評 渋谷の待ち合わせ場所として有名なハチ公前広場。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行とデジタル化によるリモートで、待ち合わせの人の数は一時半減したそうだ。それでも、新型コロナウイルス感染症が下火になれば、デジタル化が進んでも待ち合わせの人々のにぎわいが戻って来るであろう。

川柳



佐藤隆久先生

入選

食べ過ぎと妻の嫌味に一万歩

平松本町 川野 和美

少子化を暫し忘れる鯉幟

清原台4丁目 水上 義明

みな値上げ笑うしかないこの暮らし

中岡本町 竹内 竹ノ花

行列に並んで味わう旨さあり

緑2丁目 片嶋 青水

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

3208540
住所・氏名・壇名
宇都宮市役所
広報広聴課

裏

作品への思い
作品への思い
作品への思い